

氏名	須賀正和		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	博乙第1941号		
学位授与の日付	昭和63年9月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	急性頭蓋内圧亢進時における脳幹の局所脳血流と電気生理学的活性の変化に関する基礎的研究		
論文審査委員	教授 堀 泰雄	教授 大月三郎	教授 中山 沃

学位論文内容の要旨

急性頭蓋内圧（ICP）亢進時における種々の脳幹神経経路の電気活性の障害および循環障害について32頭の成猫を用い検討した。脳幹網様体を介するblink reflex R_2 はICPが約40～70 mmHgになると中脳下丘（IC）を介する聴性脳幹反応（BER）V波、内側毛帯（ML）を介する短潜時体性感覚誘発反応（S-SER）II componentに先行して消失した。またテント切痕ヘルニア（瞳孔不同出現）発生時、blink reflex R_2 、BER V波は全例消失していたが、S-SER II componentは18例中4例に誘発された。BER V波、S-SER II componentの消失時のIC、MLの \varnothing CBFはコントロール値の約50%以下に減少していた。テント切痕ヘルニア発生後、ICPを減圧してもblink reflex R_2 は全例消失したままであり、またBER V波はS-SER II componentに比べ回復が不良であった。以上より脳幹網様体（特に橋網様体）およびテント切痕に接するICの循環、神経機能はICP上昇によりMLのそれらに比べ障害されやすいことが示された。またテント切痕ヘルニア発生後、ICPを減圧しても脳幹網様体およびICの神経機能はMLのそれに比べ回復しがたいことが判明した。

論文審査の結果の要旨

本研究は急性頭蓋内圧亢進時の聴性脳幹反応、短潜時体性感覚誘発反応、瞬目反射等の脳幹諸神経回路の電気生理学的活性の変化ならびに下丘、内側毛帯、橋および延髄網様体等の局所脳血流の変化をしらべ、その場合には橋網様体および下丘の循環、神経機能は内側毛帯、延髄網様体のそれより侵されやすいことを明らかにした。これは重要な新知見であって価値ある業績と判断した。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。